

株式会社アイロムホールディングス 平成25年3月期決算説明会

平成25年5月24日
(株)アイロムホールディングス

1. **会社概要**
2. **平成25年3月期業績ハイライト**
3. **平成26年3月期業績予想**
4. **「戦略」と「トピックス」**
5. **3ヶ年計画(平成28年3月期)**

1. 会社概要

平成25年3月31日現在

- 会社名 : 株式会社アイロムホールディングス
- 設立 : 平成9年4月9日
- 本社所在地 : 東京都千代田区富士見2-14-37
- 代表者 : 代表取締役社長 森 豊隆
- 市場 : 東京証券取引所第一部 (コード:2372)
- 資本金 : 62億8,644万円
- 従業員数 : 連結:302名
- 株主総数 : 15,375名

平成25年3月31日現在

SMO事業



クリニカルサポート

- 臨床試験実施医療機関の支援
(提携医療機関数 1,427施設)
- あらゆる領域の臨床試験をサポート



アイロムホールディングス

CRO事業



- 国外製薬企業の国内導入における、
臨床試験の企画、コンサルティング
- 国内製薬企業の海外への導出、
および臨床試験のサポート

メディカルサポート事業



- クリニックモール(複合型医療施設)の
開設、運営(首都圏を中心に10施設)

2. 平成25年3月期業績ハイライト

(単位:百万円)	24/3月期 通期実績		25/3月期 通期実績			
	実績	百分比	期初 業績予想	実績	百分比	前期比 増減率
売上高	11,018	100.0%	8,150	6,704	100.0%	▲39.1%
営業利益	▲432	—	110	369 ※1	5.5%	—
経常利益 又は損失(▲)	▲1,697	—	70	587	8.8%	—
当期純利益 又は損失(▲)	▲364	—	20	1,751 ※2	26.1%	—

前期実績と比較し、各利益段階で大幅な改善

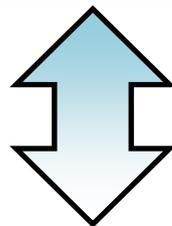
- ※1 SMO事業における、大型治験案件の獲得、
人員配置を含めた業務効率の改善及びコスト圧縮
- ※2 医薬品等の販売事業の譲渡益等

(単位:百万円)	24/3月期 通期実績		25/3月期 通期実績		
	売上高 営業利益	構成比 売上高比	売上高 営業利益	構成比 売上高比	前期比 増減率
SMO事業	2,642	24.0%	3,653	54.5%	38.3%
	92	3.5%	675	18.5%	630.4%
メディカルサポート事業	506	4.6%	564	8.4%	11.5%
	▲89	—	▲0	—	—
その他の事業	59	0.5%	66	1.0%	11.2%
	▲162	—	11	17.9%	—
医薬品等の販売事業	3,835	34.8%	2,419	36.1%	▲36.9%
	143	3.7%	98	4.1%	▲31.4%
医薬品等の製造販売事業	3,973	36.1%	—	—	—
	307	7.7%	—	—	—
合 計	11,018	100.0%	6,704	100.0%	▲21.2%
	▲432	—	369	—	—

※ 各事業の売上高はセグメント間の内部取引を除き、合計では内部取引および全社経費を控除した上、端数調整した数字を記載しております。
 平成23年11月30日付で医薬品等の製造販売事業を担う連結子会社の全株式を譲渡いたしました。
 平成24年12月1日付で医薬品等の販売事業を事業譲渡いたしました。

SMO事業・メディカルサポート事業は順調

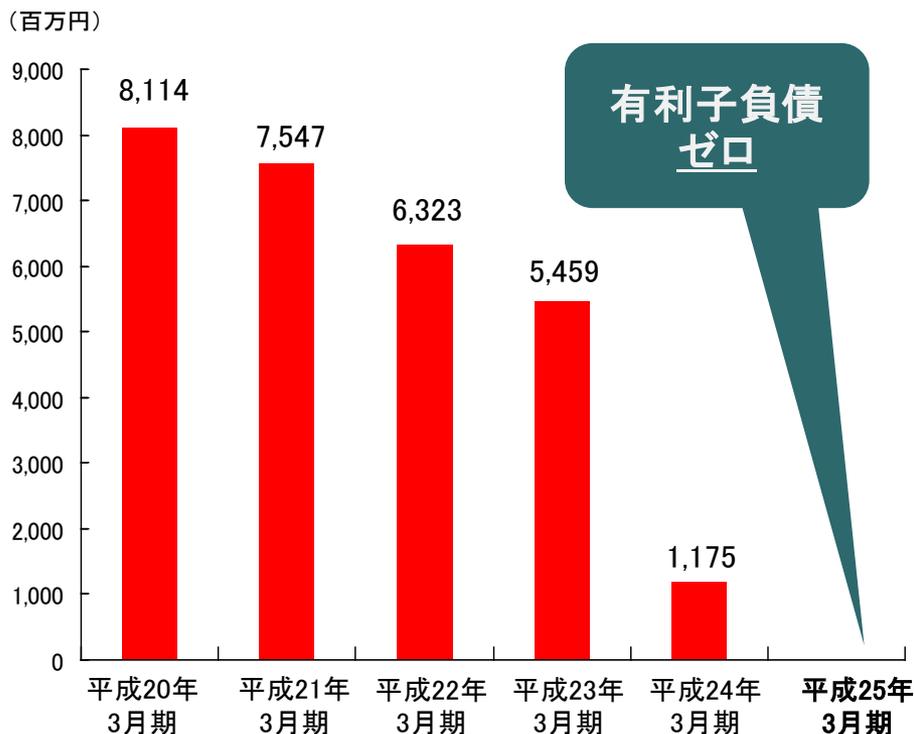
- 売上高1.4倍、営業利益7.3倍増の大幅な増収増益(SMO事業)
- 受託疾患領域が拡大(SMO事業)
- 得意領域において、大型の治験案件を順調に受託(SMO事業)
- 既存クリニックモールの収益力向上(メディカルサポート事業)



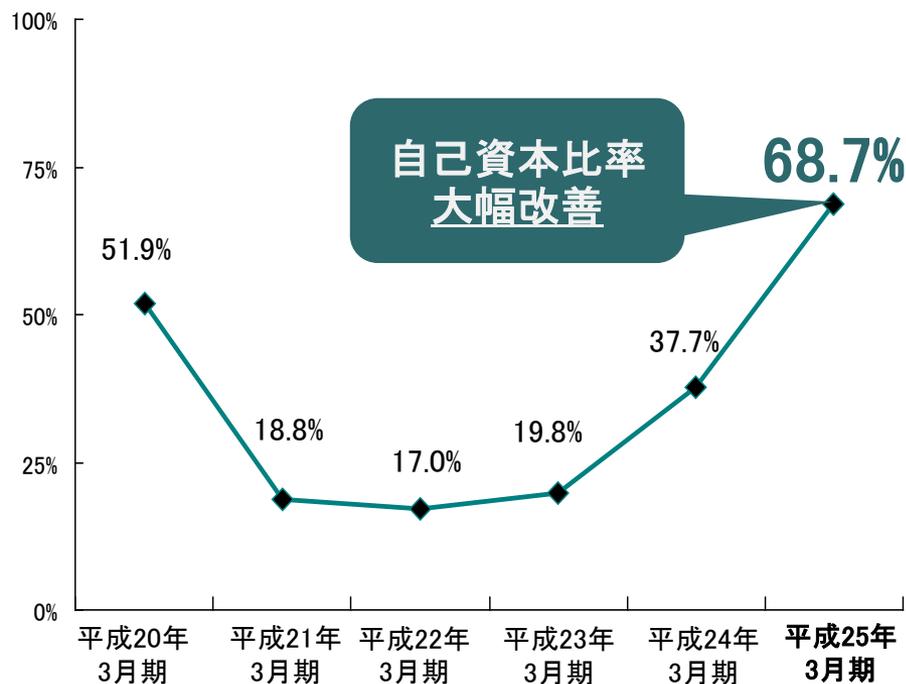
医薬品等の販売事業は譲渡、縮小へ

- 平成24年12月1日付にて事業を譲渡
- 平成24年11月30日までの売上計上により、減収減益

有利子負債推移



自己資本比率



新たなる飛躍の為の安定した財務体質を確保

【選択と集中】 SMO事業への集中、不稼働資産および不採算事業の譲渡
【財務基盤の安定】 現金および現金同等物の大幅増加

3. 平成26年3月期業績予想

(単位:百万円)	25/3月期 通期実績		26/3月期 通期予想		
		百分比		百分比	前期比 増減率
売上高	6,704	100.0%	5,100	100.0%	▲23.9%
営業利益	369	5.5%	400	7.8%	8.0%
経常利益	587	8.8%	420	8.2%	▲28.6%
当期純利益	1,751	26.1%	350	6.9%	▲80.0%

業績予想ポイント

【売上高】SMO事業への集中、不採算事業の譲渡により、減収

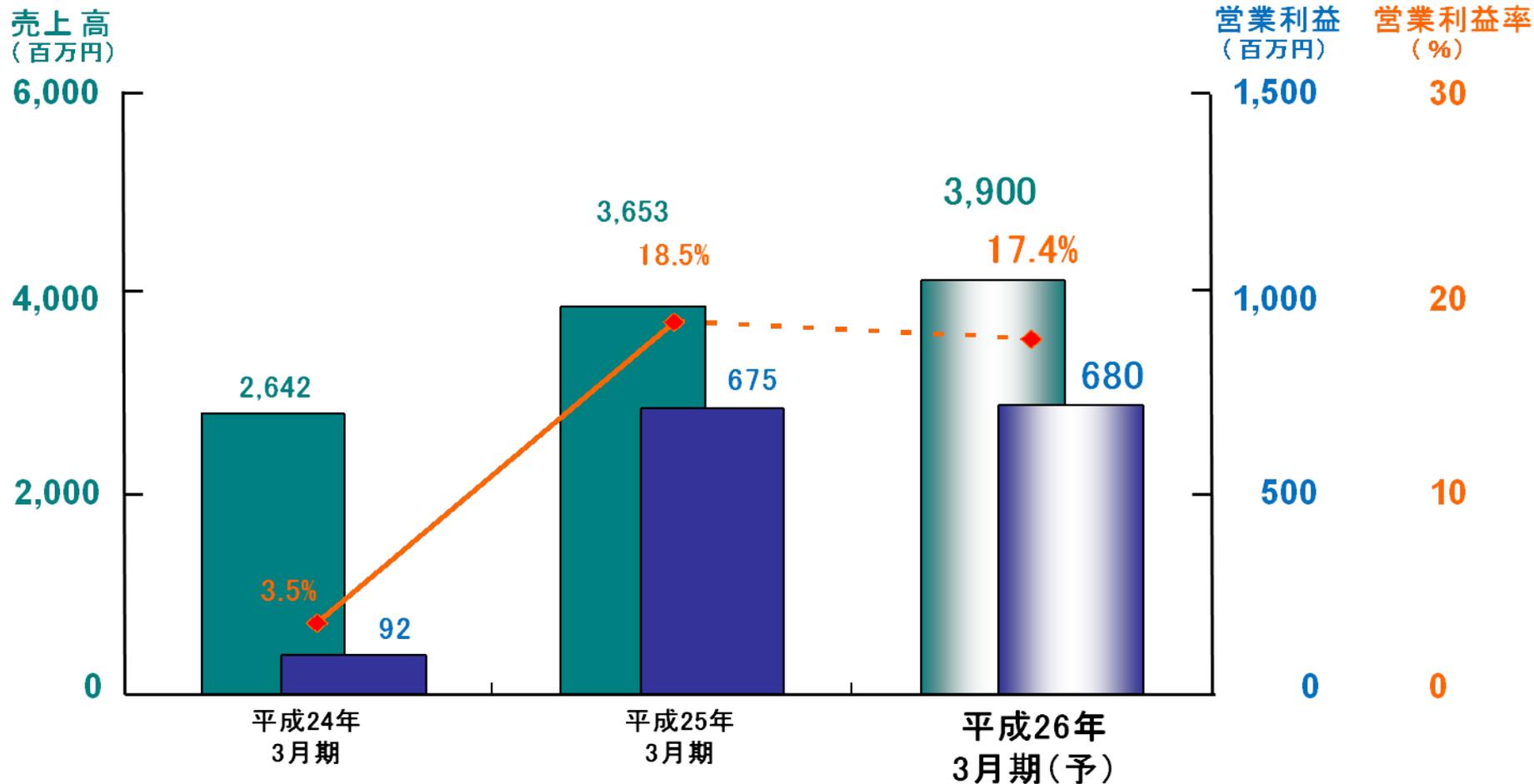
【営業利益】人員配置の見直し、シェアードサービスの活用等による
コスト削減と業務の効率化を通じ、順調に増加

(単位:百万円)	25/3月期 通期実績		26/3月期 通期予想		
	売上高	構成比	売上高	構成比	前期比 増減率
	営業利益	売上高比	営業利益	売上高比	
SMO事業	3,653	54.5%	3,900	76.5%	6.7%
	675	18.5%	680	17.4%	0.6%
メディカルサポート事業	564	8.4%	1,200	23.5%	112.4%
	▲0	—	176	14.7%	—
その他の事業	66	1.0%	—	—	—
	11	17.9%	—	—	—
医薬品等の販売事業	2,419	36.1%	—	—	—
	98	4.1%	—	—	—
合 計	6,704	100.0%	5,100	100.0%	▲23.9%
	369	—	400	7.8%	8.2%

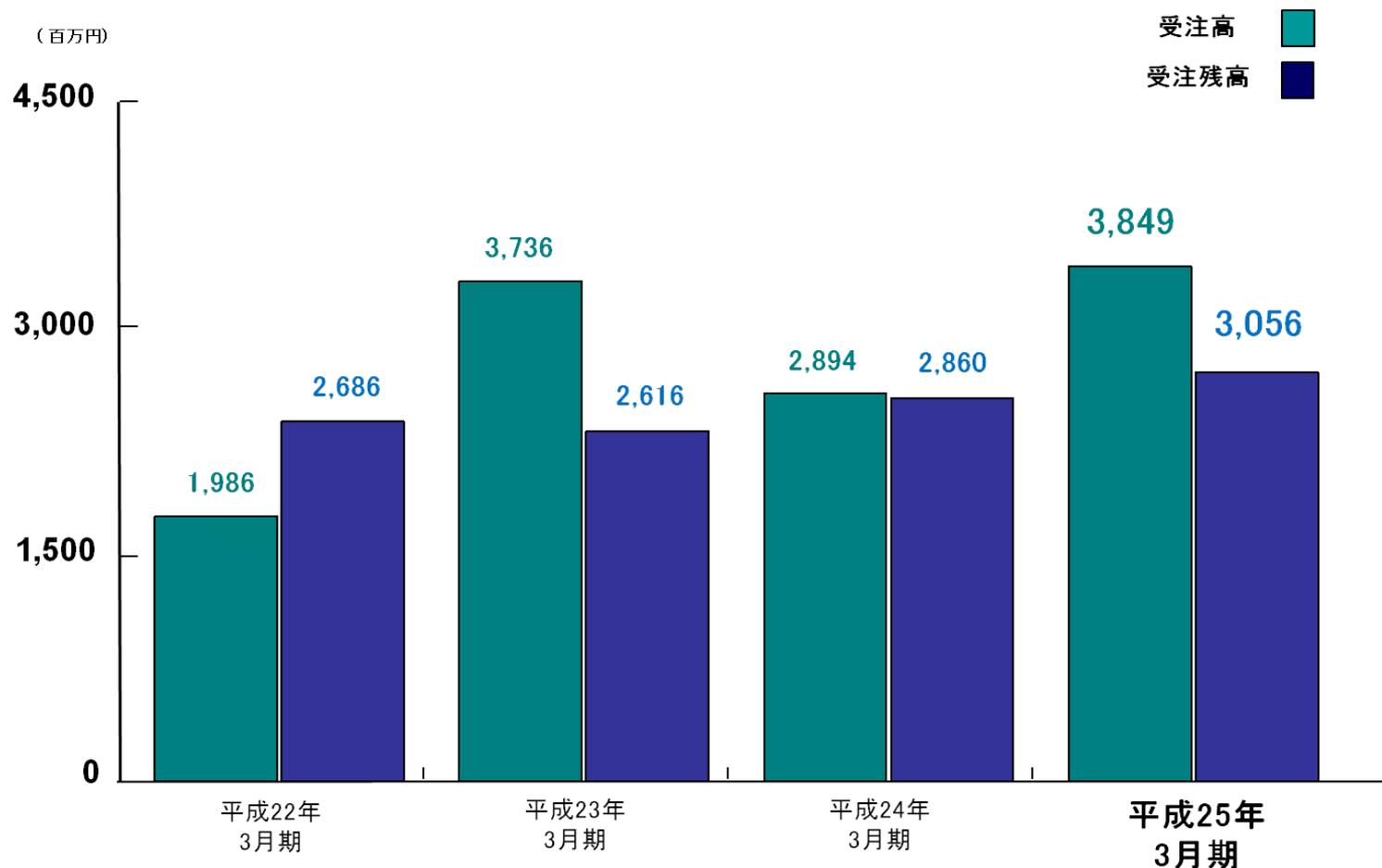
平成24年12月1日付 譲渡

※ 各事業の売上高及び営業利益はセグメント間の内部取引を除き、合計では内部取引及び全社経費を控除した上、端数調整した数字を記載しております。

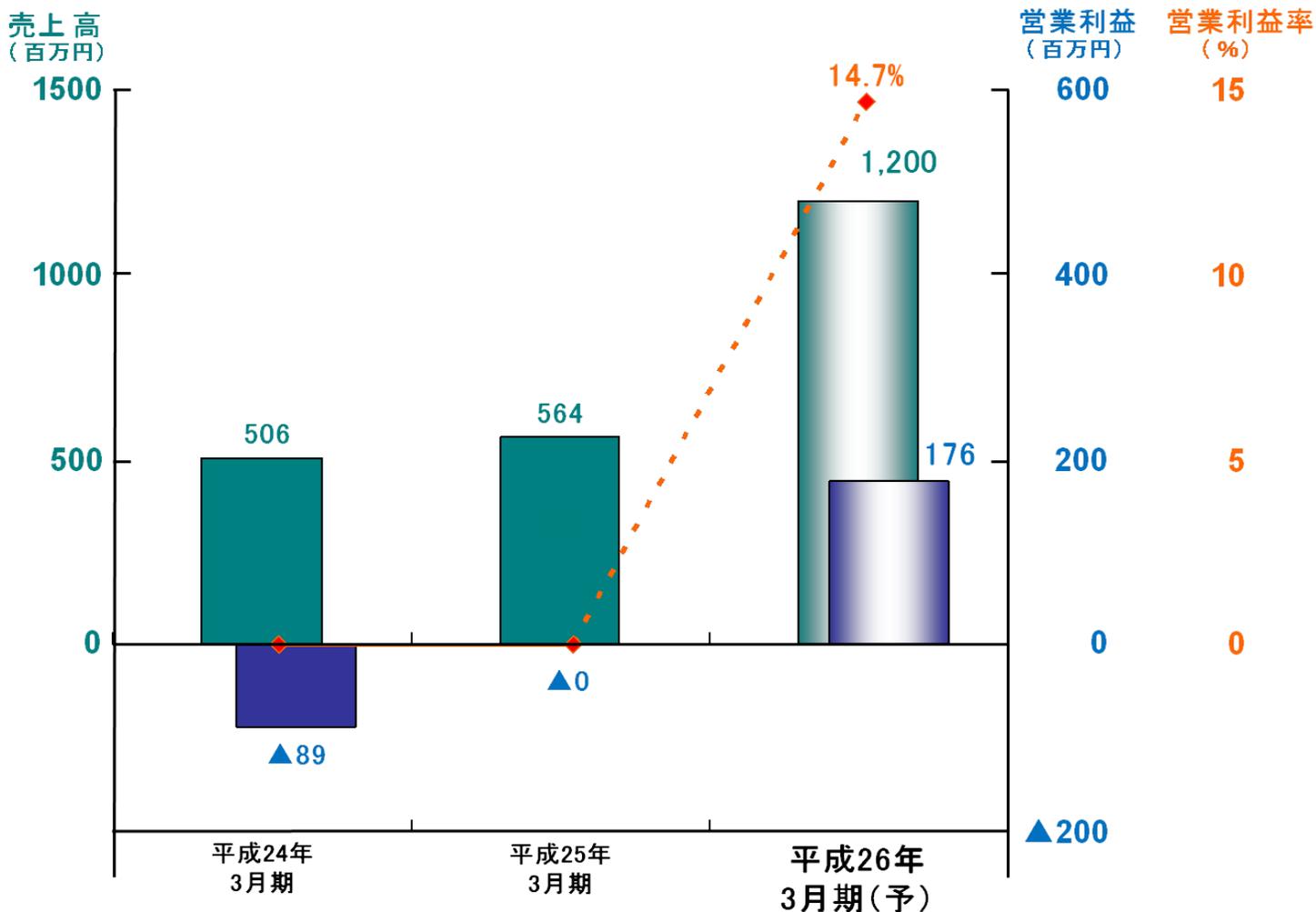
SMO事業は、堅調な営業利益を見込む



**売上高、営業利益ともに
堅調に推移**



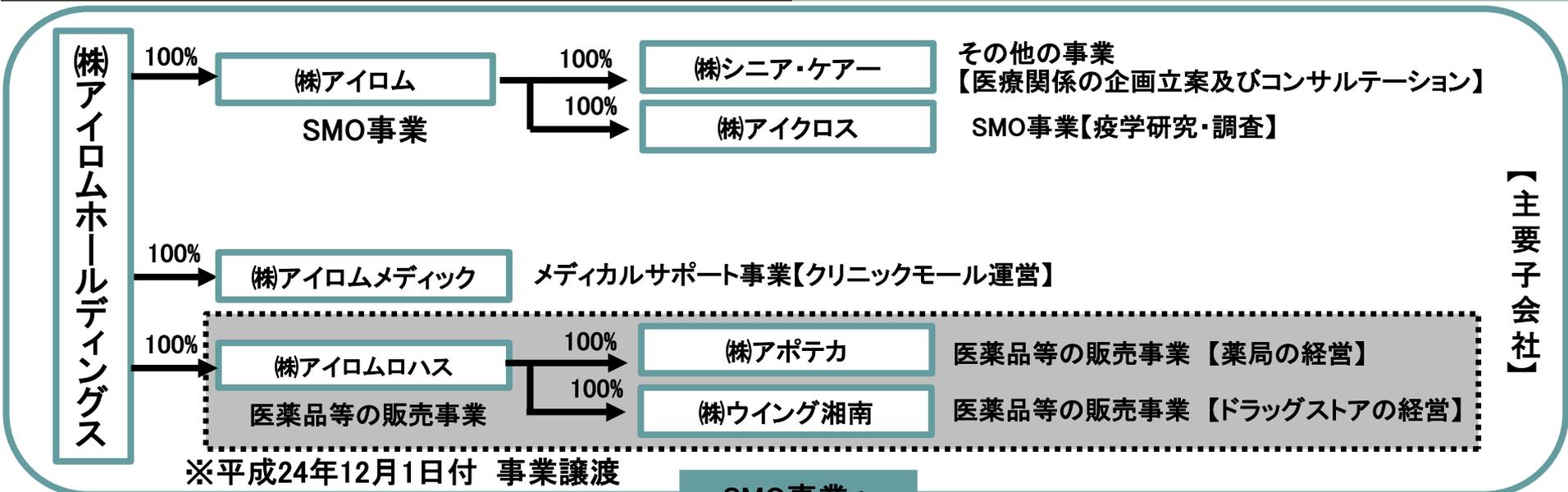
**受注高、受注残高は3,849百万円、3,056百万円
⇒今期の案件の安定的確保**



政治主導による、「医療の国際展開」、「iPS細胞研究の促進」、「再生医療製品の審査期間の大幅短縮」、「創設される日本版NIH」等に寄与できる、最先端の医療行為が実施可能なクリニックの開設、及び運営支援を推進する。

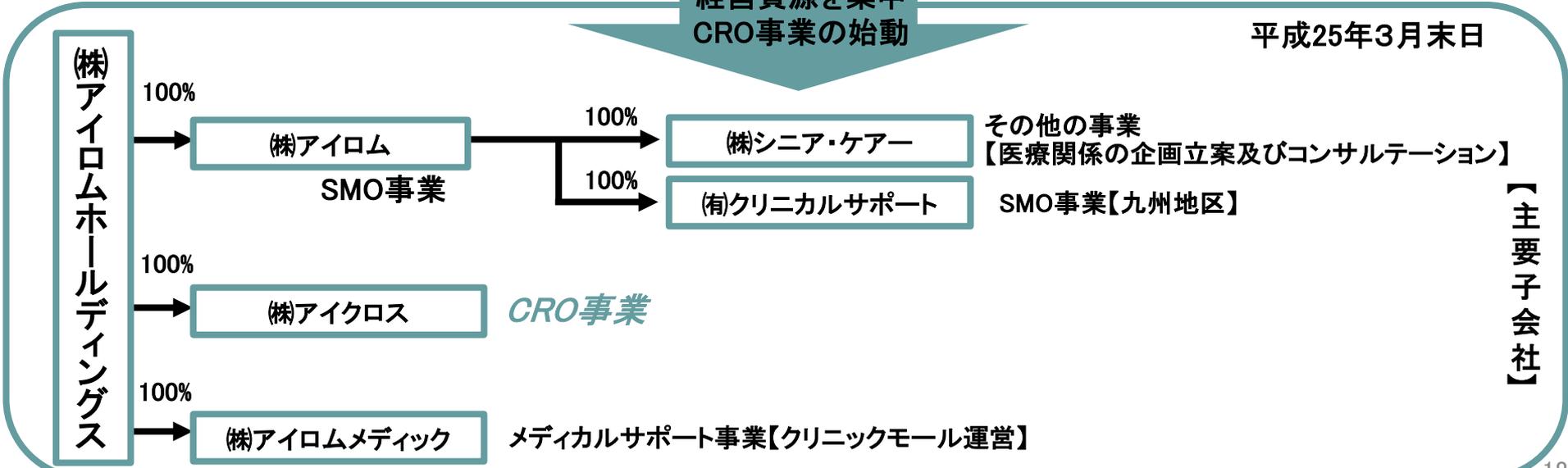
4. 「戦略」と「トピックス」

【事業の選択と集中(グループ再編を実施)】



**SMO事業へ
経営資源を集中
CRO事業の始動**

平成25年3月末日



【主要子会社】

【主要子会社】

国内事業展開



大学・基幹病院へと支援を拡大

(アンメットメディカルニーズの高い疾病領域への深耕)

海外エリア



日本を基軸に、アジア・オセアニア地域における広範なネットワークを構築

疾病領域



1. 得意疾病領域における基盤確保
2. 次世代への対応 (再生医療・遺伝子領域)

人材教育

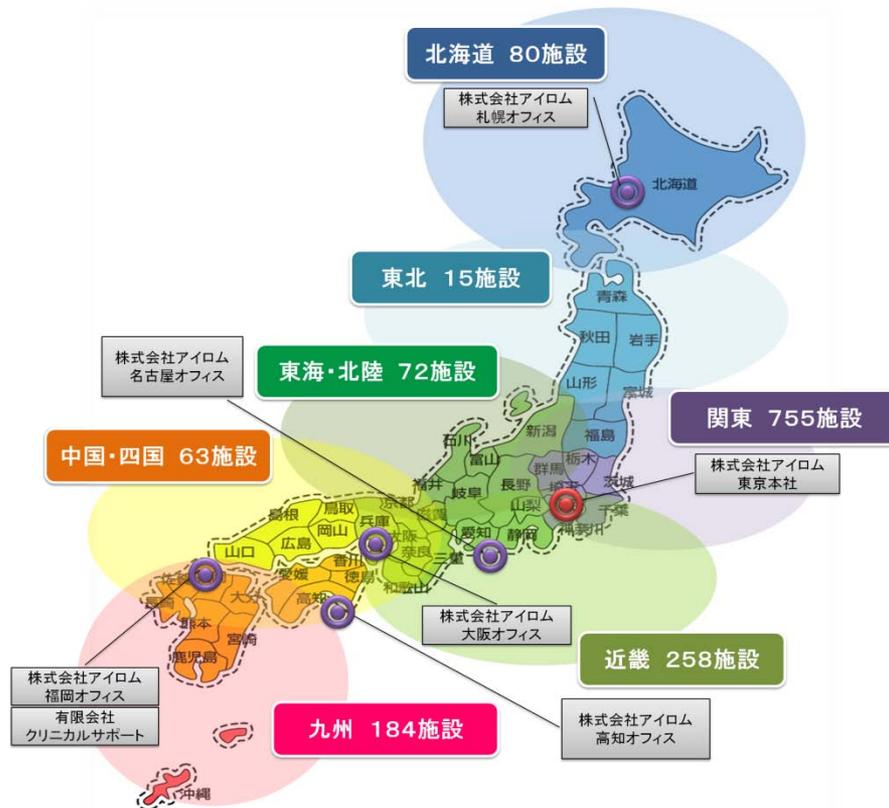
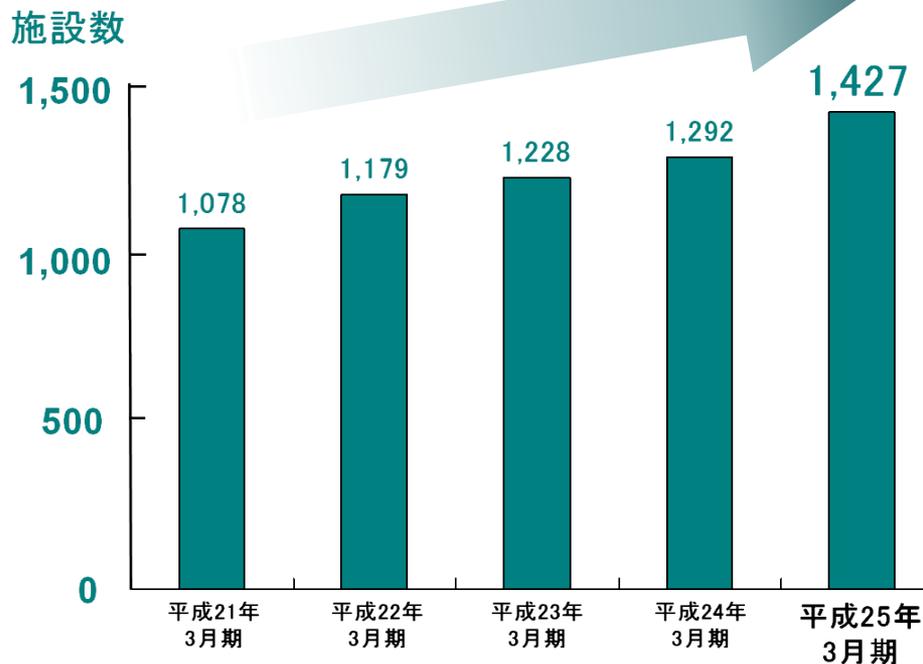


当社独自の教育システムにより、高い生産性、高品質な現場対応力、グローバル対応力を育成

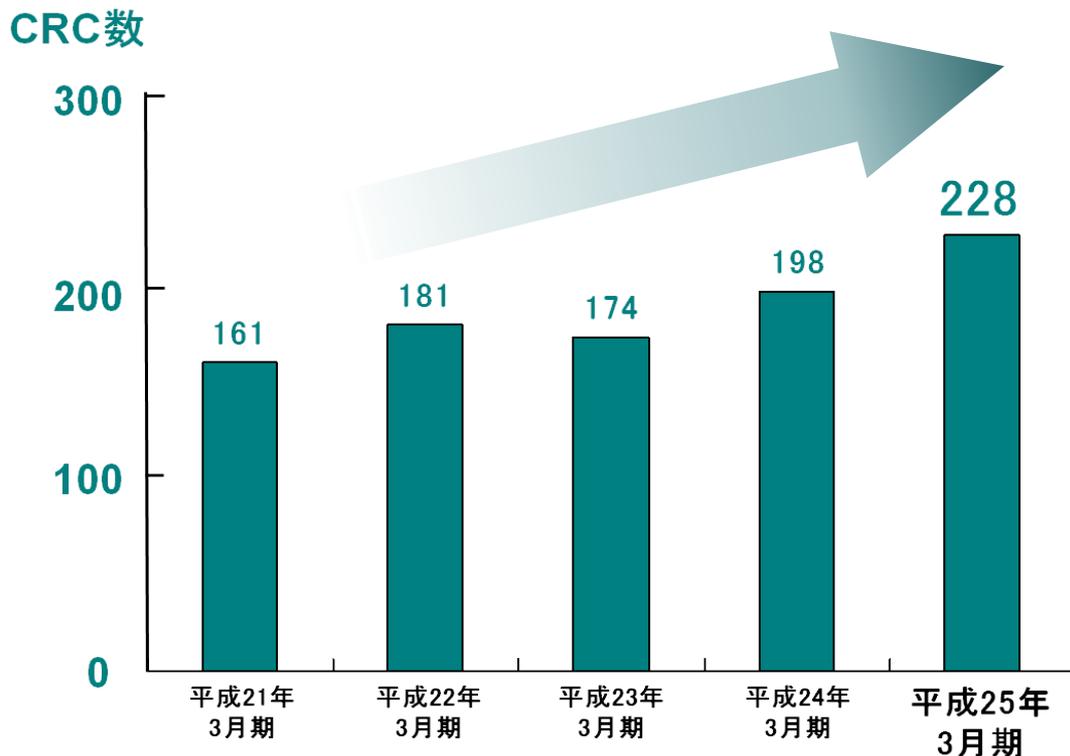
M&A



規模を拡大

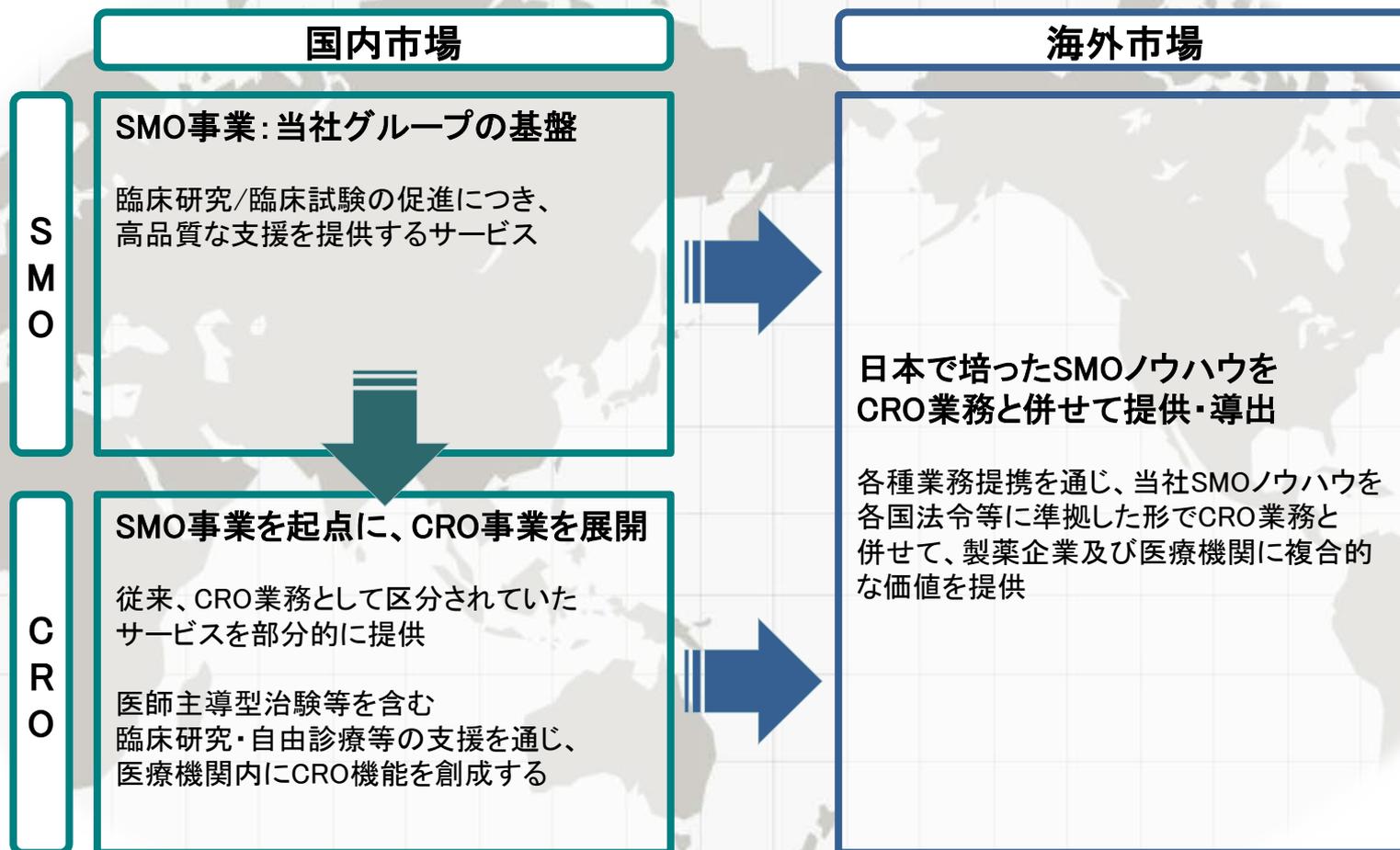


提携施設数は1,427施設へと順調に増加、
且つ重点エリア集中型による効率性の追求



CRC1人あたり
生産性
16百万円

高い生産性(売上/CRC数)、ならびに
高いクオリティを保有したCRC数が順調に推移





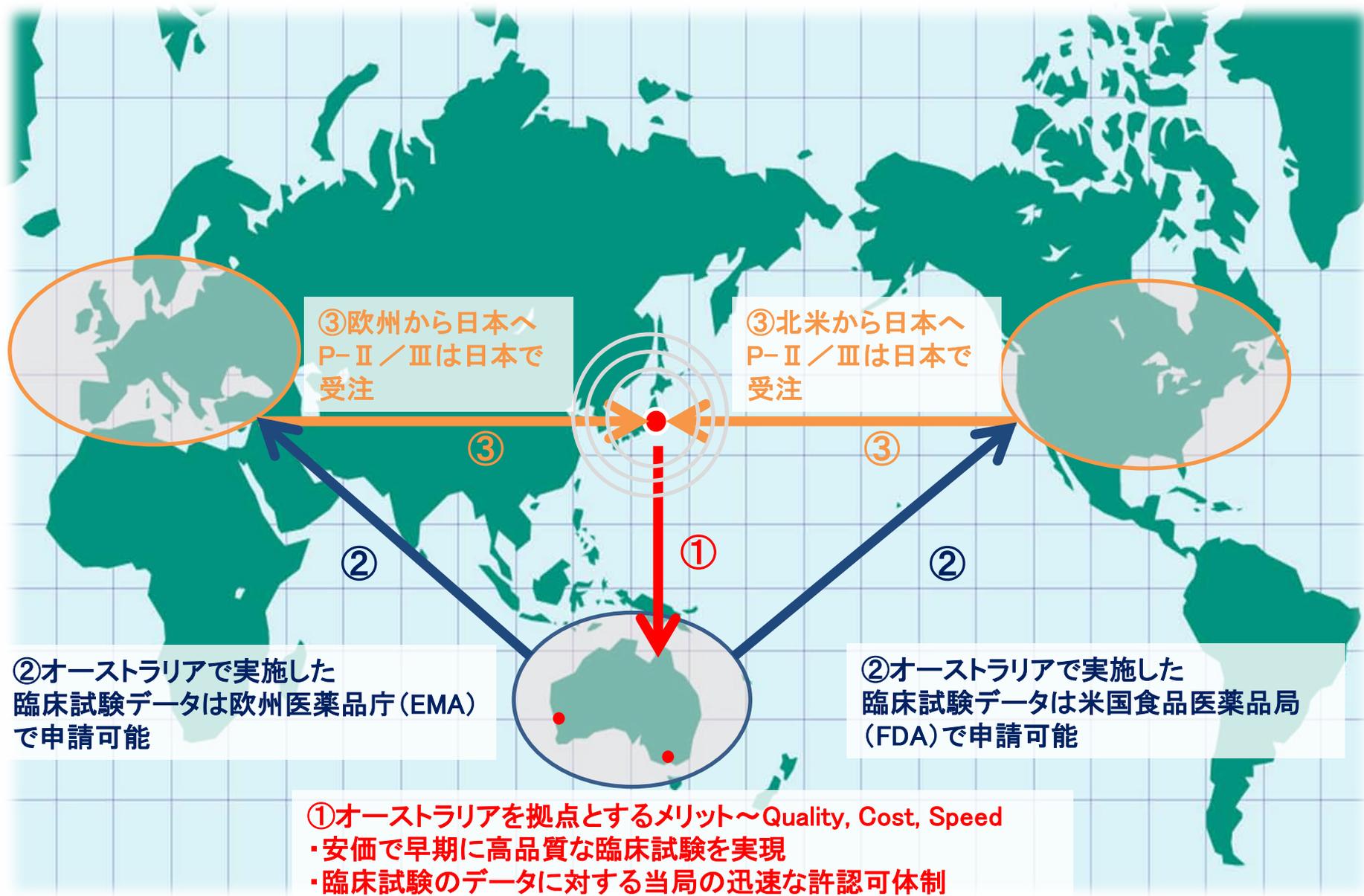
【アジア・オセアニア地域へのネットワーク戦略】

内資の製薬会社の臨床試験支援およびコンサルテーション
(欧米への進出のサポート)

- 提携① Linear Clinical Research Limited
(平成24年5月14日付開示 オーストラリア、ベッド数28床)
- 提携② Info Kinetics Sdn. Bhd.
(平成24年7月9日付開示 マレーシア、ベッド数20床)
- 提携③ IDT Australia Limited(オーストラリア証券取引所上場、コード:IDT)
(平成24年8月1日付開示 オーストラリア、CMAX、ベッド数50床)



IDT Australia Limitedの第三者割当増資引受により、
オーストラリアにおいて、更に強固なアライアンスを構築
(平成25年5月7日付開示)



アジア・オセアニアにおける提携先を選定中 ±2時間クロス十字エリアでの戦略的アライアンスを推進

国内市場

SMO事業

【グループ化】
(有)クリニカルサポート
(九州地区)

CRO事業

【提携】
(株)メディクロス
(東京)

(株)IBERICA
(京都)

先端医療事業※

【提携】
ディナベック(株)
(つくば)

※遺伝子医薬事業、
細胞工学に基づく細胞
治療・再生医療事業、
バイオ事業

海外市場

CRO事業

【提携、第三者割当増資引受】
IDT Australia Limited
(オーストラリア)

【提携】
Info Kinetics Sdn. Bhd.
(マレーシア)

SMO事業（医療機関）

【提携】
Linear Clinical Research Limited
(オーストラリア)

バイオセクターにおけるディナベックのポジショニング

- 【存在感】 今後高成長が期待される遺伝子医薬品開発とiPS技術の主要プレイヤー
- 【技術力】 強固なベクター基盤技術・特許を保有するナショナルプロジェクト発BV
- 【事業性】 創薬・再生医療・細胞治療・試薬の幅広い範囲での事業化推進実績

Assets

センダイウイルスベクター

ベクターコア技術

Domain

遺伝子治療

治療製剤
ワクチン

バイオ
関連

研究用試薬
ベクター製造

細胞工学
関連

樹状細胞
治療

Goal

創業型(高成長型)

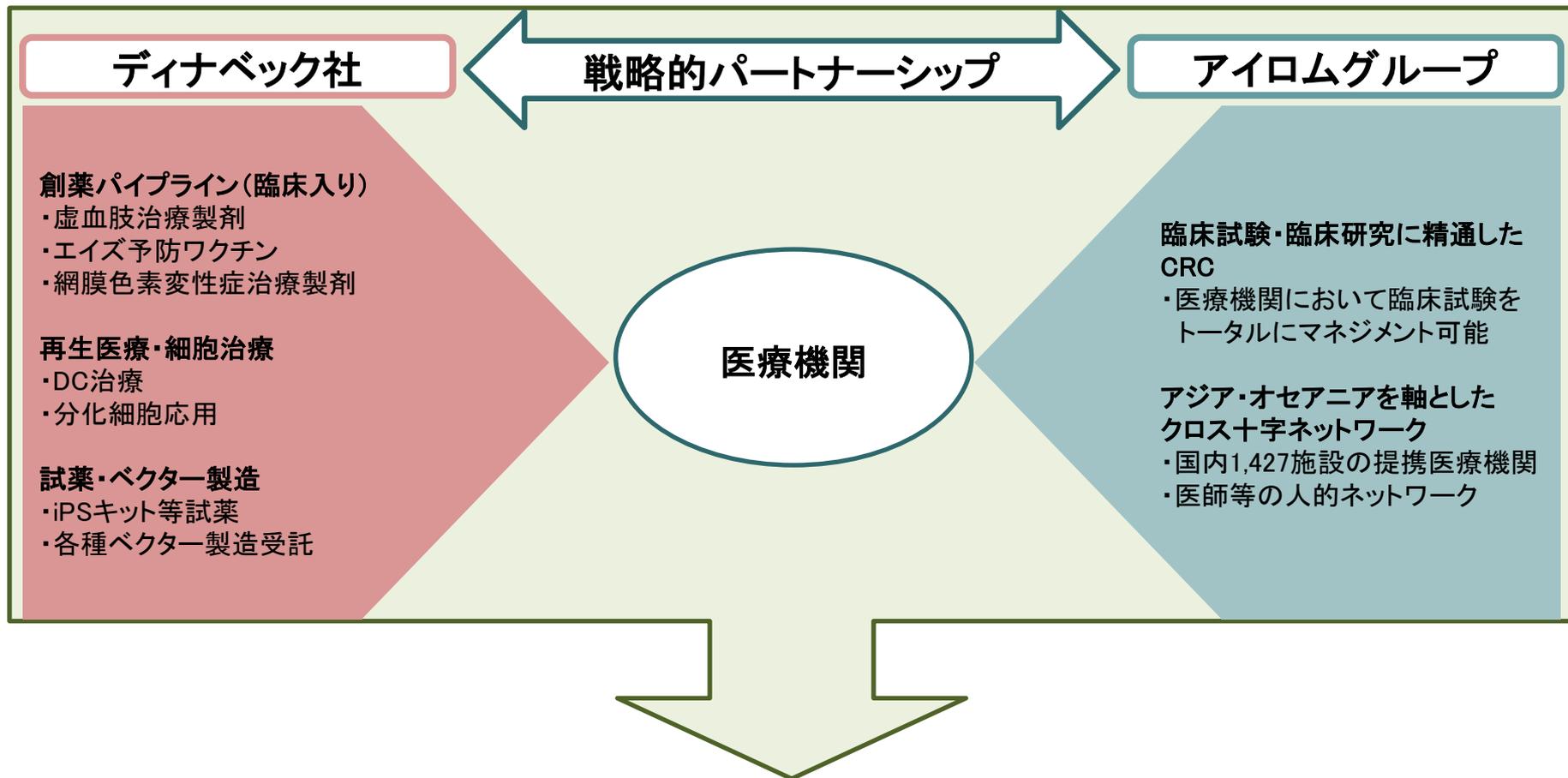
上場創業BV群

 Dनावेक Corporation

【優れたベクターコア技術を保有】
⇒国内外の有力研究機関・企業等からの
多くの高付加価値遺伝子搭載要請があり、
経営資源を集中しながら多様な事業化シード確保を実現

上場試薬メーカー・
受託サービスBV群

試薬・開発受託型(安定的収益型)



1. アンメットメディカルニーズの高い疾病領域に対して、革新的、先端的な医薬品を提供
2. 「患者様の選択、投与方法、副作用マネジメント、患者様のフォロー等」の一連の医療行為をスタンダード化

6. 3ヶ年計画(平成28年3月期)

平成28年3月期 計画

CRC数
300人

生産性
(売上/CRC)
20百万円

連結売上高
80億円

営業利益率
15%

- 本資料に記載されております当社の将来の業績に関わる見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。
- 当社の内部要因や、当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接又は間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おき願います。